2023 年度

大同大学教育開発・学習支援センター活動年報

Section. Ⅰ　センター長交代にあたって

Section. Ⅱ　センター長総括

Section. Ⅲ　2023 年度 FD ワークショップ
「学修ポートフォリオシステムの機能紹介と活用」

Section. Ⅳ　2023 年度研究授業・授業研究会開催実績

Section. Ⅴ　2024 年度研究授業・授業研究会開催予定

Section. Ⅵ　2023 年度学習支援実績

大同大学
DAIDO UNIVERSITY

Section. Ⅰ　センター長交代にあたって

■■■■就任あいさつ■■■■

教育開発・学習支援新センター長　　田中　宏昌

2023 年 10 月より、教育開発・学習支援センター長を仰せつかりました。2018 年に本学に着任し、任期途中で退職された先生を引き継ぐ形で 2021 年 4 月より副センター長を担当してきました。現センターの前身である授業開発センターの発足は 2001 年 4 月（学習支援センターは 2002 年発足）と、すでに 20 年以上の歴史があり、これまでに多くの熱意ある教員の努力が積み重ねられてきました。私は着任 6 年目の「若手」ですので、皆様の経験に基づくお知恵をお貸しいただければ幸いです。

大同大学教育開発・学習支援センター規程によると、センターの目的は以下の通りです。

(1) 本学教員が行う授業のさらなる改善・開発に資する

(2) 基礎学力不足の学生に対し、高校までの学修範囲を学習指導する

(3) 教育の改善・改革に係る企画・立案を行う

本稿では、特に(1)について紹介させていただきます。

大同大学における授業内容や方法の改善に関わる組織的取り組み（FD）として、センターでは以下の 5 つを実施しています。

①学生による授業評価アンケートとその結果の分析、必要に応じた授業改善依頼

②研究授業と授業研究会の開催

③シンポジウムおよび講演会の開催

④授業改善助成制度に基づく支援

⑤授業批評およびセンター活動年報の発行（センター活動年報は今年度より）

研究授業／授業研究会は半期 7 回実施しており、その内容は、個々の教員の授業開発を目的とした『研究授業』（ミクロレベル FD）と、学科・専攻・教室レベルでのカリキュラム開発を目的とした『教育プログラム検討会』（ミドルレベル FD）に分けられます。これまでの 2 年半で、私は時間が許す限り研究授業に参加してきました。公開していただいたほとんどの授業において、その内容や進行は非常に工夫されており、受講生が興味を持ち、集中して授業を受けられるよう誘導するものでした。実際に、授業評価アンケート結果も全学的に高い数値を保持し続けています。現在、研究授業をご担当いただくペースは 10 年に 1 回程度ですので、教員ご自身の 10 年ごとの節目での振り返りにご活用いただくことが可能です。また、ご自身が所属する学科・専攻以外の授業を参観することが、新たな授業アイデアにつながることもございますので、特に新任教員の皆様におかれましては積極的なご参加をお願いいたします。

一方、教育プログラム検討会は、これまでそれほど多く実施されてきませんでした。現在、24 カリキュラムへの移行準備が進められていることと思います。そこで、教育プログラム検討会を、新しい教授法・開講している（開講する予定の）授業間の連携・カリキュラム内容の改善・同一科目における授業内容や成績評価などの議論の場として積極的にご活用ください。議論を全学に公開していただくことで、他の学科専攻でも抱えている共通の問題を認識したり、学科専攻独自のアイデアや解決策を知ることができます。なお、様式がある程度定まっている研究授業と異なり、教育プログラム研究会の内容や議論の進行は、ご担当いた

だく学科専攻に完全にお任せしています。専任教員のみで実施することも、非常勤講師の方々に遠隔形式などでご参加いただくことも可能です。さらに、教育プログラム研究会については、センターにご相談いただければ、参加者が集まりやすい授業期間外に実施することもできます。

あくまでも個人的な見解ですが、一人一人の教員の授業の質は十分に保証されてきていますので、今後のFD は、ミクロレベルからミドルレベルへと徐々に軸足を移していくことになるのではないでしょうか。教育プログラム研究会での様々な取り組みを参観させていただくことで、本学のミドルレベル FD のあり方についての議論をより深めることができると考えております。

■■■■退任あいさつ■■■■

教育開発・学習支援前センター長　髙山　努

2023 年 9 月をもって教育開発・学習センター長を退任することになりました。ここでは、今後、本学のファカルティ・ディベロップメント（FD）に役立てていただくべく、2021 年 10 月からの任期中に行った主な施策を振返ります。

授業評価アンケートに関する変更

大学認証評価等で求められる情報公開に対応するため、授業評価アンケート結果報告書の一部（大学組織全体で実施していることのエビデンスとなる部分）を本学のホームページに掲載し、学外に公開しました。ただし、個々の授業のアンケート結果は、教員－学生間の活発な意見交換を維持するために、従来どおり学内限定閲覧としました。また、コロナ禍における暫定措置として実施してきた Web によるアンケート回答方式を、2023 年度から正式運用としました。また、アンケートの実効性をより高めるために、集計結果一覧表の様式変更および考察入力時の授業運営状況調査の設問の見直しを行いました。

研究授業の回数の見直し

従来、本学の研究授業は前期 8 回、後期 8 回を基本として運営されていました。しかし、1 学期あたり 15 週間の授業の中で、研究授業を 8 回実施することは日程的に窮屈になっていました。特に、研究授業担当ローテーションの関係で、第 1 週や第 2 週などの学期初めや第 14 週や第 15 週の学期末に開催される研究授業では、授業進行の関係から研究授業として意味のある内容で実施しにくいという問題が生じていました。また、2024 年度から期末試験を 15 週間の授業内に実施できることになっています。その多くは、第 14 週または 15 週に行われることから、ますます研究授業の実施日程が窮屈になると予想されます。そこで、1 学期あたりの研究授業 7 回を基本にする見直しを行いました。

教育プログラム検討会の拡充

本学では、2001 年度以降、授業評価アンケートや研究授業など個々の授業の改善を促すミクロ・レベルの FD に力を入れてきました。その結果、個々の授業の質は十分に高まっていることが、学生による授業評価アンケートで確認できています。また、本学は 2024 年度に全学的カリキュラム改正を控えています。このように本学の FD は、科目間や授業担当者間の連携を行うミドル・レベルに力を入れる段階に来ています。そこで教育プログラム検討会の制度を拡充し、その実施を奨励しました。教育プログラム検討会とは、

各学科・専攻・教室単位で、授業間の連携、カリキュラムの改善、同一科目における授業内容の検討など、授業改善に関わる検討を行うミドル・レベル FD の一種です。制度の拡充により、複数の学科・専攻・教室の合同開催、開講期間以外の開催、などが可能になりました。

センター活動年報の刊行

センターの所報誌「授業批評」は研究授業・授業研究会が開始された 2001 年度より発行されてきました。授業批評には、研究授業・授業研究会等での率直な議論や個人名の記載もあることから、刊行当初から学内限定閲覧となっています。そのため、同時掲載される FD 講演会やシンポジウムなど、学外にアピールできる本学のすばらしい取り組みも学内限定閲覧となっていました。そこで、授業批評の掲載内容を見直し、学外へも公開可能なものを「センター活動年報」として新たにホームページに掲載し、本学の FD 活動を積極的に広報することにしました。

これらの施策が、今後の本学の教育発展に貢献できることを願ってやみません。最後に、私がセンター長を務めるに当たってご支援いいただいた副センター長の皆様、センター所員の先生方、教育開発・学習支援センターのスタッフの皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

Section. Ⅱ　センター長総括

『センター活動の外部公開と学外からの評価』

教育開発・学習支援センター長　　田中　宏昌

2023 年度の「大同大学教育開発・学習支援センター活動年報」を発行する。この年報は、昨年度からスタートしたものであり、本学が取り組み続けている FD 活動を学外に発信することを目的としている。2001 年度より刊行している学内限定公開の所報誌「授業批評」では、主に研究授業・授業研究会における忌憚のない意見を含む議論（時として個人名も記載される）がまとめられている。かつては FD 講演会やシンポジウムに関する情報も「授業批評」に掲載されていたが、これらは本学 FD 活動の PR および学内外の連携を期待して「活動年報」として学外公開されることになった。また、活動年報の公開に合わせて本学ウェブサイト上での教育開発・学習支援センター関連のリンクを整理し、検索サイトからアクセスしやすくなるように配慮した。活動年報発行とウェブサイト整理の効果もあってか、中日新聞社よりセンターの活動に関する問い合わせをいただき、取材内容の一部を中日新聞の紙面にてとりあげていただいた（2024 年 2 月 23 日朝刊）。

本号では，2023 年度 FD ワークショップ、2023 年度研究授業・授業研究会開催実績、2024 年度研究授業・授業研究会開催予定、2023 年度学習支援実績を掲載した。今回初めて実施する学習支援実績の公開は、新聞取材において記者から非常に高い評価をいただいたことを受けてのものである。また、今年度の FD 講演会は、2024 年度より始動する学修ポートフォリオシステム（通称：DU ポートフォリオ）の紹介と活用方法を周知することを目的として、FD ワークショップ「学修ポートフォリオシステムの機能紹介と活用」として実施した。ワークショップは学内教職員を対象として開催されたが、学生たちが学修状況を自分自身で把握し、将来の進学や就職活動に役立てるための取り組みが新たに始まったことを記事として紹介する。今後も学内の教職員に役立つ記事を掲載し、さらには学外の皆様にも有用な情報を発信していきたい。

Section.Ⅲ　2023 年度 FD ワークショップ

【開催要項】

開催日時：　2024 年 3 月 11 日（月）　14:00～15:25

会場：　遠隔（Microsoft Teams を利用）

テーマ：　『学修ポートフォリオシステムの機能紹介と活用』

説明：　高山　努　／学修ポートフォリオ WG 主査

安藤　龍則／ハーモニープラス株式会社

概要：　2024 年度より全教員が利用することになる学修ポートフォリオシステムの概要と操作方法について説明する。

【参加者数】

当日参加者数（手元集計）	教員 68 名　事務職員 12 名
アンケート回答	85 名（うち 18 名が”後日視聴”）

【開催趣旨まとめ】

学修ポートフォリオ WG 主査　　高山　努

2023 年 3 月 11 日に大同大学教育開発・学習支援センター主催のＦＤワークショップが「学修ポートフォリオシステムの機能紹介と活用」というテーマで開催された。ここでは、その開催趣旨を述べる。

近年、日本の多くの大学で学修ポートフォリオが導入されてきているが、それには文部科学省中央教育審議会の答申を受けた「学修成果の可視化」と「学修者本位の教育への転換」という国の方針がある。それらを実現するために、学生自身による学修の達成状況を点検・改善するツールとして学修ポートフォリオが重要視されているのである。

大同大学では、DAIDO VISION 2030 の元、2020-2024 年度の中期計画を立案、遂行してきた。中期計画における目標達成項目のひとつとして「学修ポートフォリオの作成と学習面談での利用の推進」が盛り込まれた。2021 年 10 月に教育改革実行委員会の下部組織として、学修ポートフォリオ WG が設置され、本学にふさわしい学修ポートフォリオのあり方について検討が始まった。2022 年 3 月の教育改革実行員会に、「大同大学における学修ポートフォリオの導入について（答申）」が提出された。この答申の内容を踏まえ、2022 年 7 月に、神保学長（当時）から教育改革実行委員会に対して、「学修ポートフォリオの導入について」の提案があり、「本学に、学修ポートフォリオを、e-ポートフォリオシステムとして導入し、学修指導に利用する。」ことが承認された。また、「学修ポートフォリオシステムの正式利用開始は 2024 年度学部入学生からとする。それに先立ち、2023 年度内

に運用試験および学内利用説明会を実施する。」こととなった。今回の FD ワークショップで紹介した学修ポートフォリオシステム「ＤＵポートフォリオ」は、このような経緯で開発導入されたものであり、今回の FD ワークショップは学内利用説明会として企画されたものである。

学修ポートフォリオは、学生自身が学びのプロセスや成果を示す資料・コンテンツ等を継続的に蓄積したものであり、継続的かつ定期的に学びを振り返ることを通じて学修の到達度を確認し、取り組むべき課題を発見するためのものである。また、教員から個別指導を受けることで適切な学修支援を獲得し、学びを深化させることが可能である。学修成果を可視化し、主体的・対話的で深い学びを達成するためのツールと言える。さらに、授業を包括するカリキュラム全体のファカルティ・ディベロップメント（FD）、すなわちミドルレベル FD につながるものでもある。教員だけではなく、事務職員との情報共有も可能であることからスタッフ・ディベロップメント（SD）にとっても有用である。

今回の FD ワークショップでは、本学で 2024 年度から正式利用する学修ポートフォリオシステム「ＤＵポートフォリオ」について、2 つの講演を行った。前半の講演では、学修ポートフォリオ WG 主査の髙山より、概要説明を行った。DU ポートフォリオ利用における教務上の留意点、主指導教員と副指導教員の役割分担、年間日程、問い合わせ窓口などについて説明した。後半の講演では、DU ポートフォリオを開発したハーモニープラス株式会社の安藤龍則氏より、機能紹介と操作説明をしていただいた。指導教員－学生間のコミュケーション機能である「目標管理シート」の操作方法をメインに、それ以外の多彩な機能についても説明があった。

FD ワークショップは Microsoft Teams によるオンライン形式で行い、リアルタイムで参加できない方のために録画し、後日視聴できるようにした。また、参考資料も Teams にアップロードし、正式利用開始後も確認できるようにした。これらの施策は、専任教員・事務職員をはじめとする DU ポートフォリオを利用する関係者全員が必要な情報にアクセスできるように配慮したものである。

【参観者記事】

『2023 年度 FD ワークショップに参加して』

教養部数学教室　　岡　康之

今年度の FD 講演会は、2024 年度より本学で導入される学修ポートフォリオシステムの機能紹介

と活用に関する説明を以下の 2 部構成で行う FD ワークショップという形で開催された。

講演 1　概要説明／高山学修ポートフォリオ WG 主査

講演 2　機能紹介と操作説明／安藤　龍則（ハーモニープラス株式会社）

講演 1 では、本学の学修ポートフォリオ WG 主査である高山先生から、学修ポートフォリオシステムについて以下のような説明があった。

- 学修ポートフォリオシステムとは

  学生自身が継続的かつ定期的に学びを振り返ることを通じて学修の到達度を確認し、取り組むべき課題を発見することができるツールであること。

- 本学での呼称

  本学では「DU ポートフォリオ」と呼ばれること。

- DU ポートフォリオの利用者

  2024 年度以降の入学生・専任教員・事務職員

- 専任教員にお願いしたいこと

  学生が学期ごとに記入する目標管理シートの「目標」と「振返り」へフィードバックする。

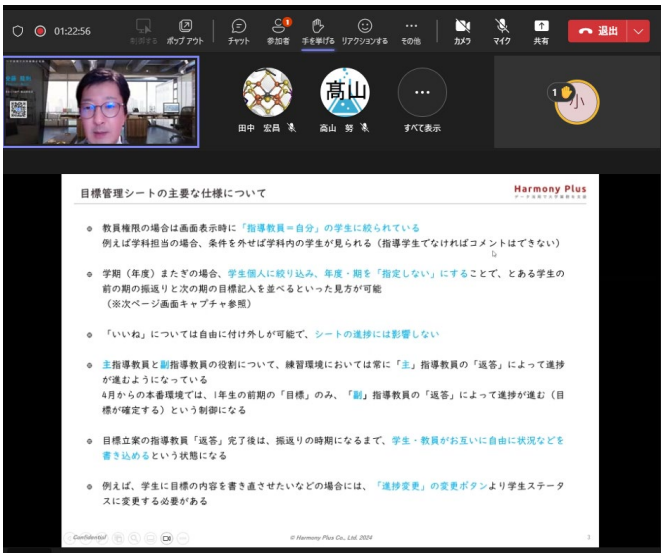
  【副指導教員の役割】

  ・ログイン操作・キャリアビジョン記入・１年前期目標記入などを FYS を通して指導

  ・学生から提出された目標に対する、フィードバック

  【主指導教員の役割】

  ・学期末に学生が記入した振返りおよび次学期目標に対するフィードバック



- DU ポートフォリオに関する問い合わせ窓口：

  教育開発・学習支援グループ（教務室）

また、講演 2 ではハーモニープラス社の安藤様より、具体的なポートフォリオシステムの使い方が説明された。「学生 ID でログインした場合」と「教員 ID でログインした場合」の 2 つの画面を通して学生・教員双方で何が行われるのかを、例としてポートフォリオシステム内の「目標管理」などを題材に解説が行われた。説明を聴きながら、個人的には「学生・教員双方ともほとんど直感的に操作できそう」という印象を受けた。説明の中での注意点として、学生の誤提出（誤送信）や提出後の修正について、一度提出したものは学生側では修正ができないため、教員側で「進捗状況変更」を行わなければならないということであった。確かに本学の学生においては(特に最初の段階で)多発しそうな現象であるため、進捗状況の変更の仕方は教員側でも早期の修得が必要であると感じた。

今回のワークショップに参加して、DU ポートフォリオの具体的なイメージができたことはとても有意義であった。DU ポートフォリオによる学修成果の可視化は、４年間の大学生活に適度な緊張感とやる気を学生に与える可能性があると感じられた。可視化と振り返りによって、漠然と過ぎ去っていた時間に具体的な意味をもたらす効果があることは間違いない。そのうえ、うまく学生がこのツールを活用することによって、短期的な視点でも長期的な視点でも自己肯定感を得やすくなるのではないかと期待される。

ただ、ひとつ懸念されることは、システムの活用が学生自身に委ねられることである。学生がこのシステムの意義を把握し積極的に使いこなすことによって、その分の見返りも大きいことは間違いないであろう。しかしながら、例えば次学期目標を「頑張る」の一言で終えてしまう学生たちや、そもそも記入しない学生たちに対してはこのシステムの存在意義はほとんど無いに等しいと思われる。システムを活用できるようにする前に、このシステムに臨む姿勢を教育する必要があるようにも感じられる。しかしながら、教育するには多少なりとも時間がかかる。そこで、質疑応答の時間にもあったように、「記入しないと履修登録が出来ない」や「500 文字以上などの文字数制限」などの条件を課すことも必要かもしれないと感じた。まずは運用してみて、問題を洗い出しながら本学に適したポートフォリオシステムの活用に対する解を見つけることが望まれる。本学に適した解がどのような性質を持っているのかという問いはとても興味深い。

最後に、今回の FD ワークショップの講師を務めて頂いた高山先生、安藤様、並びに、今回の FD ワークショップへの参加の機会を与えて下さった関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

【学長まとめ】

『DU ポートフォリオへの期待』

学長　　渡邊　慎一

３月１１日に開催された教育開発・学習支援センター主催のＦＤワークショップ『学修ポートフォリオシステムの機能紹介と活用』を参観しました。本学における学修ポートフォリオシステムは、第１期 中期計画に教学マネジメントの確立を目指し、学生の学修成果を可視化するためにその導入が盛り込まれました。その後、高山教授を主査とする学修ポートフォリオ WG において精力的にご検討いただき、２０２４年４月から「DU ポートフォリオ」として運用が開始されました。

DU ポートフォリオは、各学生の学業成績や GPA はもちろんのこと、ディプロマ・ポリシー（DP）の達成状況がレーダーチャートで可視化され、学生本人はもちろん指導教員も随時確認することができます。また、各期の始めに学生は「学業」「キャリア形成」「学外での活動」の３つの観点で目標を設定し、期の終わりにその取組みを振返り、その達成状況を５段階で自己評価します。そして、教員は学生が設定した目標や取組みの振返りに対して、アドバイスや情報提供などをポートフォリオ上でやり取りすることができます。これによって学生は学業だけでなく、キャリア形成や学外での活動も意識し、自身が立てた目標の達成を目指して様々な行動や取組みを行うことになります。これを１期

から８期まで積み重ねることによって、学生は多くの知識と技術を身に付けると共に、様々な経験を積み、人間としても大きく成長できると考えています。さらに DU ポートフォリオには、外部アセスメント調査として GPS-A の結果も格納され閲覧することができます。言わば、学生の指導に必要なデータが一箇所にまとめられることになり、学生指導の高度化・効率化も期待されます。また、学生とのやり取りが蓄積されていきますので、研究室配属などで指導教員が交代されたときも、それ以前の学修状況や指導状況が把握でき、きめ細かな指導ができるものと考えております。

先生方におかれましては、日々の授業やこの DU ポートフォリオを活用して、積極的に学生と関わっていただき、様々なことに挑戦するよう促していただきたいと思います。この取組みが、DAIDO VISION 2030 の「自分が変わる、未来を変える。」を実現する契機になるのではないかと期待しています。様々な物事に挑戦し、目標を達成できたら学生は大きな自信となります。そのようなときは是非、学生を褒めてあげてください。一方、学生が様々な挑戦をして、努力したけれど失敗したり、上手くいかないことも多々あると思います。しかし、それは決して無駄なことではなく、学生にとっては貴重な経験として成長の糧になると考えています。そのような時には是非、失敗から立ち直れるよう暖かい言葉を掛けていただきたいと思います。そのような経験を積み重ねて、自分軸がしっかりと定まり、打たれ強い人物に成長するのではないでしょうか。先生方におかれましては指導学生の伴走者として、入学時から卒業時まで適切なアドバイスや情報提供を行っていただければ幸いです。

本学にとって DU ポートフォリオは初めて導入されるシステムですので、不具合やどのように活用するのか戸惑う状況もあるかと思いますが、試行錯誤しながら、意見交換しながら、効果的な学生指導を実現していきたいと考えております。何とぞご協力くださいますよう宜しくお願いいたします。

Section.Ⅳ　2023 年度研究授業・授業研究会開催実績

大同大学は、教育重視型大学としての使命を果たすために、全教員の授業の公開を原則とし、持続的に授業の改善と充実に努めることを定めた「大同大学授業憲章 2001」を制定しています。より良い授業を目指し本学教員相互による授業研究活動を行っており、大同大学における教員の教育資質開発と授業改善の方策を新たな段階に導いています。そのために、非常勤講師も含む個々の授業について検討する研究授業・授業研究会、および、複数授業間の連携を図る教育プログラム検討会を開催しています。

2023 年度の開催実績を以下に表示します。

【研究授業／授業研究会】

回次	実施日時	授業担当者	所属	科目名	研究授業参観者数（名）	授業研究会参加者数（名）
第 321 回	5/8（月）	原科　浩（教授）	教養部 物理学教室	力学 1	11	11
第 322 回	5/26（金）	加藤　聡一（教授）	教養部 教職教室	教育原理	14	9
第 323 回	6/6（木）	石田　敏彦（准教授）	機械システム工学科	創造製作演習	7	10
第 324 回	6/26（月）	服部　佳晋（教授）	電気電子工学科	電子回路 1	14	10
第 325 回	11/13（月）	岡田　心（教授）	情報デザイン学科	造形デザイン演習 2	12	11
第 326 回	11/23（木）	藤井　浩明（教授）	総合情報学科	情報統計学 1	13	8
第 327 回	12/6（水）	松井　豊次（教授）	教養部 外国語教室	資格英語 2	5	5
第 328 回	12/22（金）	白石　裕之（教授）	機械工学科	熱移動工学	8	8

【教育プログラム検討会】

回次	実施日時	学科	研究・検討内容	参加者数（名）
第 21 回	6/21（水）	建築専攻／インテリアデザイン専攻	2024 年度新カリキュラムの新設科目（「建築概論」，「芸術概論」，「環境色彩論」および「デジタルファブリケーション演習」）の教授内容および演習内容に関する検討およびセミナ科目（建築・インテリア入門セミナ，セミナ 1，セミナ 2 および卒業研究）の 5 段階評価移行に伴う成績評価基準と評価方法に関する検討	24
第 22 回	6/28（水）	機械工学科	現在 PC 必携化が始まり 3 年目となっている。長い議論の上導入されたわけではなくコロナ下で暫定的に導入された経緯があり、2 年次以降の授業へのノートパソコンの展開が遅れているのが現状である。他の学科の利用状況を鑑みながら 24 カリキュラムにどのように反映させていくか学科として前向きに検討したい。 具体的には機械工学実験、CAE 系科目での導入ができないか検討する。	22
第 23 回	7/11（火）	情報システム学科	24 カリの編成に合わせて、これまでに行われてきた情報演習の授業内容を見直し、24 カリのキーワードであるサイバーフィジカルシステムの授業内容を取り入れた演習内容について検討する。	23

第 24 回	7/14（金）	土木・環境 専攻	『中期キャリア教育』に関する検討と試行 ～この『学びとキャリア』という科目のスタートアップを目的として実施中の、「ドボクの就活ミーティング」の実績を紹介し、その問題点と改善点について検討する。～	11
第 25 回	9/19（火）	かおり デザイン専攻	建築学部移行に伴い、授業間の更なる連携と運営方法についての検討	28
第 26 回	2/7（水）	教養部 数学教室	新学習指導要領に基づく教育課程を履修した入学者に対する留意点	14

Section. V　2024 年度研究授業・授業研究会開催予定

大同大学では、FD 活動のさらなる飛躍を期し、学外の皆様の幅広いご意見をいただくこととしています。2024 年度は、以下の日程で開催します。

【研究授業／授業研究会】は、学外の教育関係者もご参観いただくことが可能です。参観を希望される方は、下記よりお申し込みください。

《申し込み・問い合わせ先》
大同大学教育開発・学習支援センター
電話：　052-612-6118
E-mail：　cti@daido-it.ac.jp

【研究授業／授業研究会】

回次	実施日時	授業担当者	所属	科目名
第 329 回	5/13（月）	武藤　隆 (教授)	建築専攻／ インテリアデザイン専攻	インテリア計画 2
第 330 回	5/30（木）	中村　裕哲 (准教授)	総合情報学科	経営学概論
第 331 回	6/7（金）	柘植　覚 (教授)	情報システム学科	パターン情報処理
第 332 回	6/17（月）	小酒井 良延 (非常勤講師)	物理学教室	力学
第 333 回	6/26（水）	冨永　慎一 (教授)	情報デザイン学科	情報デザイン基礎実習 A2
第 334 回	7/11（木）	日高　直保 (講師)	人文社会教室	心理学 A
第 335 回	10/8（火）	神﨑　隆男 (教授)	機械工学科	流体力学基礎
第 336 回	10/25（金）	田中　淑晴 (教授)	機械システム工学科	電気・電子工学 1
第 337 回	11/1（金）	井口　昭彦 (非常勤講師)	電気電子工学科	電気電子数学 2
第 338 回	11/4（月）	森長　誠 (講師)	建築専攻／ インテリアデザイン専攻	環境工学 2
第 339 回	11/25（月）	朝倉　宏一 (教授)	情報システム学科	ネットワークプログラミング
第 340 回	12/3（火）	宮嵜　靖大 (准教授)	都市空間インフラ専攻	構造設計学 B
第 341 回	12/12（木）	湯田　高志 (教授)	情報デザイン学科	メディアクリエイティブ論 C

【教育プログラム検討会】

回次	実施日時	学科	研究・検討内容
第 27 回	5/23（木）	機械システム工学科	2024 年度より、24 カリがスタートする。機械システム工学科では、3 年次生に開講している機械工学実験において、担当教員が定年退職によって数名入れ替わっており、機器の老朽化も起きている。そのため、24 カリの該当学年が履修するまでの 2 年間に、学科の実験担当委員を中心に実験内容や使用機器の入れ替えや見直しを検討する必要がある。

Section.Ⅵ　2023 年度学習支援実績

大同大学では、学生を自立した学習者に育てることを学習指導の方針とし、基礎学力不足の学生に対して、大学での授業内容の前提となる高校までの学習範囲を学習指導し、本学の教育課程に規定する授業科目の学習が達成できるよう学習支援を行っています。

注 1）前期・後期は支援科目ごとに時間割を定め、週 1 回継続的に受講する。

注 2）各科目とも 2～4 名程度でクラスを設定

【支援期間】

前期	後期	夏期
4/24(月) ～ 7/21(金)	10/9（月）～1/15（月）	第 1 クール（8/28-31） 第 2 クール（9/4-7） 第 3 クール（9/11-14）

【開講科目数／受講延人数】

科目	前期		後期		夏期	
	開講科目数	受講延人数	開講科目数	受講延人数	開講科目数	受講延人数
数学	4	188	4	86	4	38
理科	4	258	6	122	2	20
英語	4	271	5	71	2	43
合計	–	717	–	279	–	101

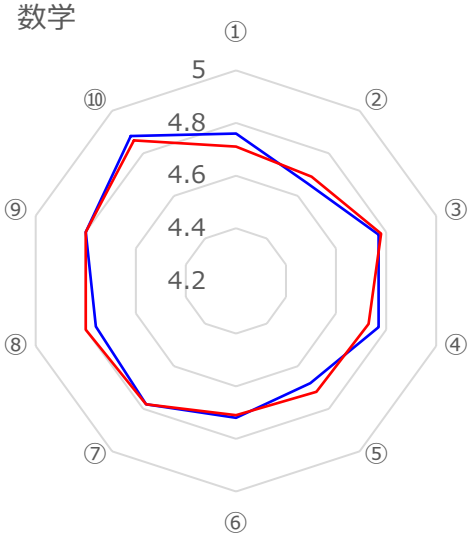
【受講実人数】

学科専攻	前期	後期	夏期
機械工学科	64	26	4
機械システム工学科	49	27	11
電気電子工学科	46	35	8
建築専攻／インテリアデザイン専攻	54	17	6
土木・環境専攻	29	13	5
かおりデザイン専攻	14	1	0
情報システム学科	73	31	8
情報デザイン学科	35	9	4
総合情報学科	28	2	1
4 年生	1	0	0
3 年生	3	2	0
2 年生	38	19	2
1 年生	342	141	44
合計	384	162	46

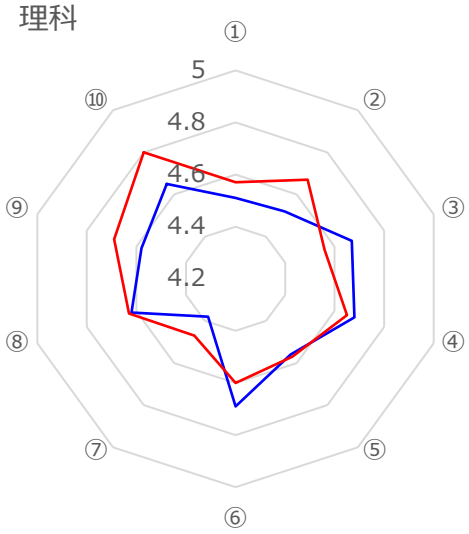
【授業評価アンケート】

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
数学	前期	4.76	4.66	4.77	4.77	4.68	4.72	4.78	4.76	4.80	4.88
	後期	4.71	4.69	4.78	4.73	4.72	4.71	4.78	4.80	4.80	4.86
理科	前期	4.51	4.52	4.67	4.68	4.56	4.69	4.38	4.62	4.58	4.65
	後期	4.57	4.67	4.56	4.65	4.57	4.60	4.47	4.63	4.69	4.80
英語	前期	4.70	4.83	4.93	4.90	4.82	4.85	4.63	4.78	4.82	4.60
	後期	4.88	4.90	4.94	4.94	4.90	4.96	4.76	4.84	4.98	4.73

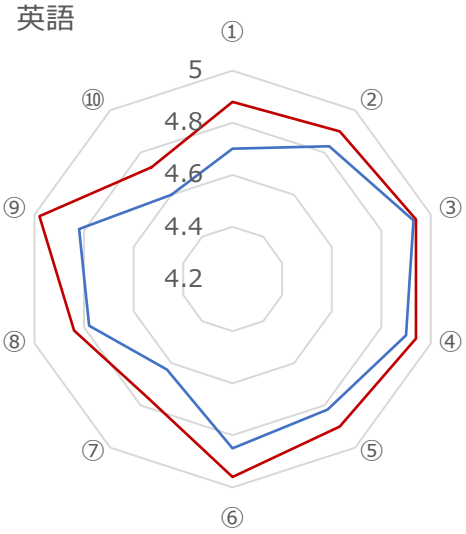
数学



理科



英語



※軸 4.2-5.0 で表示

＜質問項目／5 点満点＞

①授業内容のレベルは、満足できるものでしたか。
②この授業に対する担当教員の熱意が感じられましたか。
③担当教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。
④担当教員の授業内容の説明の仕方や教え方は上手でしたか。
⑤担当教員は、授業を行うにあたって工夫や配慮をしていましたか。
⑥担当教員は、学生の質問や意見を述べられるような配慮やｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをしていましたか。
⑦使用した教材（ﾃｷｽﾄ・配布資料など）の量・難易度は、適切でしたか。
⑧板書は、量・内容ともに適切でしたか。
⑨授業は、全体として満足できるものでしたか。
⑩授業は、正規の授業の理解に役立ちましたか。

以上